

米医学の教科書がかなり広範に利用されており、英和医語辞典としての『医語類聚』は、ダングリソンの原著以上にひろくむかえられていたにちがいない。

『講筵筆記』は海軍病院でおこなわれたエドウィン・ホイラー（一八四〇—一九二二）の解剖学講義を、奥山虎章と半井成質とが共訳した書物で、全四〇巻、明治四年九月に海軍病院官板として出版された。

奥山虎炳がその例言で

訳例専ラ先輩ヲ師効シ敢テ妄爲臆造セズ唯細微ノ部分未
タ先輩ノ訳ヲ経ザル者ニ至ラハ別ニ慎ンデ訳字ヲ創シ之
ニ填ツ然レドモ猶其ノ妥当ヲ欠者無キヲ得ズ看官之ヲ諒
セヨ

とのべているように、そのころ適切な訳語が存在しなかったために、翻訳にあたってはかなりの苦心があったものと思われる。この翻訳が奥山虎章をして、『医語類聚』を編纂させる契機になったのではないかと考えられる。

共訳者の半井成質はこの『講筵筆記』の翻訳刊行によって、明治七年一月に海軍軍医寮から賞賜をうけているので、奥山虎章も同様の賞賜をうけたものと思われる。

なお奥山虎炳は海軍病院において、ホイラーやウイリアム・アンダーソンの講義を、海軍生徒のために通訳しているとの記録があるので、海軍病院勤務であった虎章もおそらくその任にあたったであろう。（一九九五四年四月例会）

我国医学界初のX線実験 臨床講義者・丸茂文良

唐 沢 信 安

今年は、レントゲン教授 (Wilhelm Conrad Röntgen) がX線を発見して百年目を迎えている。

その間、放射線医学は著しい発展をとげた。そこで初期の我国のX線の受容について述べてみたい。

明治二十八年（一八九五）十一月八日、ドイツ・ヴルツブルグ大学物理学教室でレントゲン教授がX線を発見した。更に十二月二十八日には、「放射線の新種について」と題して大学の物理医学会雑誌九号に発表した。

その半年後の明治二十九年五月三十日、丸茂文良は、私立医学校「済生学舎」の講堂で学生を集め、X線発生装置を作り、自分の懐中時計の鎖と、タバコ及び二銭銅貨をX線写真に撮影し、学生達にX線の特性について説明した（これが我国の医学者として初めてのX線発生実験の成功であった）。

当時、レントゲン教授のX線発見の報は、一月六日にロンドンから海底電信で全世界に報道された。しかし日本には伝わらなかった。

日本に情報が伝わったのは、汽船に資料が積載され、郵便により配達される迄に、二カ月を要した。第一報は二月二十日前後と推察される。

東京大学医科大学のドイツ人教師スクリバは三月上旬、外科学の助手、丸茂文良を自宅に呼んで、レントゲン教授のX線撮影による夫人の手の写真を示し、文良に直ちにX線の実験を勧めた。

文良は帝国大学医科大学在学中より、夜間物理学学校に通ったり、済生学舎の物理学講師、飯盛挺造の助手をし、特に物理学に興味を持っていた。

そのX線実験を援助したのは、実業家の鹿島清兵衛であった。鹿島は写真技術に興味を持ち、「玄鹿館なる写真館を木挽町に作ったり、秘かに稲光を発するオモチャ（ガイスレル管・クルックス管）をドイツから輸入していた。鹿島の装置の提供と、スクリバ教授の勧めで、文良は明治二十九年四月一日より実験に入った。

ところが、物理学界では文良の実験より一步早く反応を示した。先ずドイツに留学中の長岡半太郎より一報が日本に寄せられた。それを受けて東京大学理科教授・山川健次郎のグループと、第一高等学校教授・水野敏之丞、山口鏡之助の二組がおのおの個々に実験を行った。そして手掌のX線写真を撮影した。この事を文良は山梨の父元格の百日祭に出席中知らされた。

少し遅れて京都の第三高等学校教授・村岡範爲と島津源蔵（島津レントゲン創業者）の協力で実験を開始した。

そこで、文良はこの人々とは別個に、X線の医学上の応用に着目した。先ず済生学舎の講師・山田良叔に自分の胸中を

話したところ、山田は「X線は結核菌を殺菌し、組織の変化を起すかも知れぬ」と語ってくれた。

そこで文良は細菌学的知識を得るために、帝国大学医学大学の衛生学教室の坪井次郎、横手千代之助に相談している。更に伝染病研究所の北島多一に依頼して、コレラ菌、チフス菌、結核菌、丹毒菌の提供をうけている。又中川愛咲にも協力を依頼した。

今一人の協力者は文良の妻宗（旧姓深萱）であった。済生学舎出身で日本で七番目の女医であった。宗は夫文良のX線実験の助手として熱心に協力した。

しかし細菌学の培養に不慣れのため、種々細菌にX線を照射するも、孵卵器の温度の失敗から正確な判定のデータが得られなかった。文良は講義中、残念がった事が記録されている。

また前記の山田良叔も、「レントゲン氏X線及び其の診断効果」と題し、明治二十九年四月九日の済生学舎医事新報に翻訳文を掲載している。

このように、官立の帝国大学医科大学におけるよりも、私立医学校「済生学舎」においてX線の研究が活発であった事は興味深い（因みに、野口英世は丸茂文良のX線実験の五カ月後、明治二十九年十一月四日に済生学舎に入学している）。

以上、丸茂文良の我国初のX線医学的臨床講義について報告する。

（一九九五年四月例会）